

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>・地域に根づいたサービスは、開所時より目指している。地域密着サービスの意義について確認し、今まで以上に地域の中での生活の継続支援を考えている。</p> <p>・事業所独自の理念を、職員全員で作りに上げた。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>・日々のカンファレンスなどで理念に触れ、それに基づいたケアの実施について話し合い方向性を一つにしている。</p> <p>・理念が見える場所に貼ったり、管理日誌に書き込むことにより日常的に意識できるようにしている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>・家族には家族会や訪問時に話したり、生活の様子を通して理念をわかりやすく伝えている。</p> <p>・地域の人々には、自治会総会やお便りで知らせしたり、運営推進会議や行事への参加などから生活の様子を見てもらい理解を深めてもらっている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>・散歩の時のあいさつや立ち話を大切にし、隣近所との関係作りを努めている。野菜やお花をもらったり、散歩の見守りをしてもらったりと、自然に近所つきあいが深まってきている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>・自治会の総会、盆踊り、ミニデイなどに参加して、年々地域の方との活動を増やし交流を深めている。</p> <p>・「こども110番の家」として地域に協力している。小学生のボランティア活動、中学校の職場体験、子育て支援センターなど子供たちとの交流も大切にしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・管理者は事業所での実践経験をふまえて認知症ケアの啓発に熱意をもっている。小学校の総合学習で高齢者の生活、認知症について講義をしたり、ヘルパー2級の養成にも関わっている。人材育成として研修生や見学の受け入れも積極的に行っている。	○	・地域(班)にお便り配りなどで出かけ、身近な人たちの生の声を聞きたいと思っている。同時に、お茶飲みに誘ったり安否確認なども兼ねてより関係を深めていきたいと思っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・サービス評価は何のためにするか、そしてどう活かすのか、資料をもとに学習する機会をもち、自己評価に取り組んでいる。 ・外部評価を1年に1回の見直しの機会として、職員全員で取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議は年間計画にそって、サービスの実際や評価への取り組みなどを報告して意見をもらっている。 ・生活の様子を知ってもらったり評価してもらうために、利用者と共にお茶をして過ごしてもらおう時間も作っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・介護保険課や健康福祉課、包括支援センターに気軽に出入りできる関係ができています。機会ごとに、現状や経過の報告、サービスへの取り組み、活動状況について報告、相談している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・介護職員に必要な知識として、資料をもとに学習する機会を持っている。 ・必要と思われる人にはこちらから情報の提供をしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待防止の研修を積極的に受け、報告により他の職員と学びの共有をしている。 ・言葉、態度での虐待についても、話し合う機会をもち虐待防止を徹底している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約に関する書類の説明は、わかりやすく説明し要望や心配なことなどを聞き確認しながら話している。契約後も、いつでも気軽に聞いてもらえるように声かけしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・利用者から、何でも言える雰囲気作りに努めている。また、こちらから、意見や不満、苦情などを伺う機会を作っている。 ・生活の中での利用者の声にはすぐに対応するように努めている。必要な時はカンファレンスを行い早期に対処している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	・毎月のお便りに、行事の様子、ナイスショット、最近の様子を書き添えて生活の様子をお伝えしている。 ・家族の訪問時には、こちらから生活の様子をお伝えするようにしている。 ・毎月、家族に出納簿と領収書を送り金銭管理の報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族から、何でも言える雰囲気作りに努めている。また、家族会や来訪時、電話などでこちらから意見や不満、苦情などを伺う機会を作っている。 ・苦情の受付窓口を表示、案内して知らせている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、意見や提案を聞くようにしている。 ・いつでも、どんなことでも職員からの意見を大切にし、必要があればすぐに改善している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・利用者の生活の様子に合わせ、必要な時間に必要な人員を確保し、適切なサービスが提供できるように調整している。 ・管理者は通常シフトに入れず、夜間の対応や利用者の状態の変化に対応できる柔軟な体制が取れている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・認知症ケアの魅力、小規模ケアの魅力を感じられる組織作りに努めている。 ・利用者全員と職員全員が馴染みの関係を作れるシフトを組んでいる。 ・採用職員には、情報の提供や教育を行い、その習得状況により変則シフトや夜勤に入っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の能力、経験年数、スキルに応じ研修へは積極的に参加している。報告会、報告書により学びを共有している。 ・機会ごとに学習するOJTも日常的に行っている。 ・ヘルパー、介護福祉士の資格習得も勧めている。 	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・しまね小規模ケア連絡会の会員として、活動を通し交流の機会をもっている。 ・関係事業所との、情報交換や交流、他の事業所の見学実習などの機会も大切にしている。 	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者、主任は職員の顔色、表情を見ながら疲労やストレスなどに気を配り、声をかけたり話しをしたりするようにしている。 ・休憩室の確保、不定期飲み会などを実施して気分転換や職員交流をすることにより、関係を深めるようにしている。 	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現場にいる管理者が、職員の個々の性格や得意分野などを把握し良かったことは褒めたり、疲れているときにはねぎらいの言葉をかけたりし、向上心へとつなげている。 ・運営者は現場の声を大切にしてくれている。 	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に本人と面接して、不安や困っていることを直接聞く機会をもっている。言葉での表現は難しくても、表情、しぐさなどから心情を組み取るように努め、不安の除去に努めている。 	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の困っていること、状況の把握に努め、信頼関係を作るようにしている。面接時のみでなく、不安なことなどあればいつでも相談できることを伝えている。入居前には、安心して入居できるよう心配事や体調などを伺う電話を入れたりしている。 	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・家族や本人と面会し、困っていることや不安な事を聞き、適したサービスの提案、紹介をしている。他の事業所やサービス、ケアマネを紹介することもある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・本人の思いや性格などにより、少しずつ雰囲気に慣れられるように個別の関わり方を工夫している。 ・他の利用者や職員と、ゆっくりお茶を飲みながら話をすることから始め、少しずつ顔見知りの良い関係を築くようにしている。 そして、表情などを見ながら、サービスの提供を進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・職員も家族の一員として接し、人生の先輩としてたくさんの事を学んでいる。喜びも悲しみも共にわかちあい、本人が楽しく生活できるような関係作りをしている。 ・ケアを通し、本人主体の生活について考える機会を日常的に持っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・家族との関係作り、情報の共有に努め、一緒に支援する姿勢で関わっている。 ・家族に現状を伝え、家族の思いや必要な情報を聞き生活を支えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・本人の希望を聞き、家族と一緒にの外出、外泊などをこちらから提案している。 ・家族が在宅の曜日、時間に電話をする機会をつくり、家族との絆を大切にしている。 ・認知症の理解についてや、笑顔がたくさん見られた出来事などについて、本人と家族のより良い関係作りのために伝える。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの場所へ買い物やイベントに出かけ、馴染みの人との関係が途切れないようにしている。 ・近所の方の訪問などは、みんなで喜び過ごしやすい場所を準備し、おもてなしをしたり、記念写真を撮ったりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・利用者同士の関係の把握に努め、情報の共有をしている。 ・気の合う利用者同士で、お茶や話し、歌、ゲーム、役割活動などを通して、楽しく過ごしながら関係を深めるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス利用終了後も利用者と一緒に面会に行ったり、担当者からその後の様子を聞いたりしている。 ・遊びに行き来する関係が続いているケースもある。 		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の関わりの中で思いや、希望など、把握するように努めている。言葉や表情、しぐさなどから思いを組み取りそっと確認するようにしている。 ・明確に把握できない場合は「本人はどうか」と、話し合い思いの把握に努めている。 		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に生活歴や馴染みの暮らし方、これまでのサービス利用の経過などの聞き取りをしている。 ・家族の訪問時などに、必要な追加情報を収集している。 		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・目先の現象にとらわれず、全体像を見るように心がけている。 ・出来ること、わかる事の発見などは、記録し情報を共有している。また、わかりやすい記録の工夫をしている。 		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の関わりの中で本人からの思いや意見を聞いたり感じたりしている。 ・家族や担当医と話し合い、思いや意見、アドバイスを介護計画に反映している。 		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・介護計画の期間に応じた見直しを行っている。それまでに状態の変化があれば、家族や担当医と話し合い、計画の立て直しをしている。 		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・利用者の日々の状態がわかるように食事、水分、排泄などの身体状況および、1日の流れ、生活の様子を記録している。記録はいつでも見られ、情報収集をしてから、勤務につくようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・本人、家族の状況により、イベントへの参加、ドライブ、外食、病院受診など、必要な支援や楽しみの提供に対応している。 ・地域の医療機関と24時間、医療連携が取れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・社会福祉協議会、福祉事務所、ボランティア、警察、消防、バス会社など、必要な時に必要な協力をお願いして支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・地域のケアマネジャーやサービス事業所と、連絡、相談をしながら適切なサービスを利用できるよう支援している。 ・地域ケア会議にも参加することがある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・運営推進会議に地域包括支援センターの所長が参加され、情報の交換や連携をとっている。 ・地域包括支援センターとの協働で、在宅復帰を実現することができたケースがある。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・事業所のかかりつけ医を希望される場合は適切な医療が継続されるように情報提供をしてもらっている。 ・病院受診は家族対応としているが、希望があれば代行している。 ・邑智郡では地域医療連携(医療・福祉)の強化に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・協力医療機関の担当医に診断情報や治療方針、認知症についての指示や助言をもらっている。 ・困難事例は精神科医へ受診、相談している。緊急時の対応も可能である。 		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職員を配置しており、日常の健康管理や状態が変化した時の対応がスムーズにできている。24時間対応で夜間緊急時なども、医師、看護師に連絡、相談ができる出来る体制を取っている。 		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	<ul style="list-style-type: none"> ・入院までに、適切な医療が効果的に受けられるよう事前情報を提供するようにしている。 ・入院中の経過や治療などについては、担当医や相談室の担当者と情報交換をしながら早期退院に向けての支援をしている。 		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人、家族、かかりつけ医と話し合いながら方針を決めて共有している。経過中も本人、家族の思いを確認しながら最良の方法を話し合い、方針を変更している。 ・話し合いは、必要と思われる時期に始めている。 		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医と今後の方針について、機会ごとに話し合っている。利用者、家族の希望、事業所の受入れ体制、医療機関との連携などを考慮しながら、支援していく方針を明らかにしている。 		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・移り住むことになった場合、その方の生活の様子や支援の内容、好み、趣味などこれまでの生活が継続されるように、十分な情報提供をしている。その後も必要な情報を電話などで交換しダメージの防止に努めている。 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの誇りやプライバシーを傷つけないような言葉かけや対応について話し合う機会を持っている。 気になる言動は個別に指導している。 	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 利用者と過ごす時間を通し、本人が決める力や希望、関心、好みなどを見極め、楽しい生活ができるよう支援している。 思いを表出しやすい関係づくりや言葉、態度に努めている。 その人に合った選択方法を提供し、表情やしぐさでのサインも見逃さず受け止めている。 	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> 利用者一人ひとりの状態、思い、ペースに合わせてながら生活をしている。 お出かけや、買い物、メニューなど利用者の希望を聞いたり、選んでもらったりしながらゆったりした生活を楽しんでいる。 	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> お部屋に鏡付き洗面台を設置している。個人の化粧ケースや鏡がある人には、それを使いやすいように部屋にテーブルなどを準備している。 理、美容院は、お好み、相性、値段、馴染みの関係があるところに出かけている。 	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> 食事に関する一連の流れの中で、個別の方法で出来ることの参加をしている。 食事は職員と一緒に、会食を楽しんでいる。 片付けへの参加も、それぞれの方法でされている。 	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 本人が望まれる方は、お部屋で間食や晩酌を楽しまれている。 希望を聞いたり、お好みを知って、お茶やコーヒー、ココアを入れている。 買い物に出かけて好きなお菓子などを、自由に買ってもらっている。 	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 排泄の失敗、おむつの使用は以前より増えてきている。個別の排泄パターン、サインを知り、適切な言葉がけによるトイレ誘導をするように努めている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 個別の排泄パターンを把握に努め、失敗の回数、おむつの使用を減らすようにしていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 入浴は毎日いつでもできる。本人の希望を確認して準備しておく、ご自分で入られる方もいる。 ザ・シャワーを設置し気軽にシャワーマッサージも楽しめる。 気の合う方同士で楽しんで入浴されることもある。 		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣を大切にし、昼間の休息も自由にしている。消灯は決めず、好みでテレビを見たりお茶を飲んだりゆっくりしている。 睡眠が取れるよう、日中の活動、体調、入浴、入眠までの関わりなど個別に支援している。 夜間十分な ホールでも休まれるようにクッションや掛物を準備し、気軽 		
.				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの力が発揮できるよう、得意なこと、手馴れたことなどを一緒にしている。出来ることの喜びやねぎらい、感謝の言葉はおしまずに伝えている。 関心や興味のある楽しみ事や催しに出かけたりして、気晴らしの支援をしている。 		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> お金を持つことの大切さを理解している。 家族と相談して、本人管理、お出かけの時に財布を持って出る、事業所管理など、個別の方法で支援している。 		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 洗濯物を干したり畑を見に行ったりついでに、ベンチでひなたぼっこをしたりおしゃべりを楽しんだりしている。 心身の健康維持、季節感の楽しみ、ストレス解消のために、日常的に散歩、買い物、ドライブに出かけている。 車椅子の方も天気の良い日は外に出るように努めている。 		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の希望や思いを聞き、催しへの参加、故郷訪問などしている。 本人の「墓参りに行きたい」などの思いなどを家族に伝え、一緒に出かけられる機会作りの支援もしている。 		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> いつでも電話などできるようにしている。こちらから、家族への電話や手紙を勧めることもある。 本人の言葉を、お便りに代筆することもある。 ハガキ絵を描いて出すのを楽しみにされている方もある。 		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	<ul style="list-style-type: none"> 訪問はいつでも良く、面会時間などは決めていない。 面会時には、気楽に過ごせる場所を提供し、お茶やお菓子の接待をし、生活の様子などもお伝えしている。 お見送りのあいさつには「また来てください」と、笑顔と言葉を添えている。 		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 研修会などに積極的に参加して学習の機会をもち、身体拘束をしないケアを実践している。 何気ない一言や態度が、拘束になっていないか、話し合う機会や資料をもとに学習する機会を持っている。 		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 日中は、居室、玄関、裏口などすべて開放している。 夜間は警備会社に管理してもらい、人員の少ない時間帯も安全である。 希望により、居室に鍵を付けている方もいる。 		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	<ul style="list-style-type: none"> 利用者がホールで過ごされる活動時間は、職員1名はホールと一緒に過ごすようにしている。 外に出かけられた時、付き添い、見守りなど、個別に支援している。地域の方の見守りも自然に出来ている。 昼夜とも、巡視時間を設け人員確認と所在の確認をしている。 		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の状況に合わせて、裁縫道具(針、はさみ)など、自己管理されている。 包丁は本数の確認をして、夜間は鍵付き引き出しに保管している。 洗剤、シャンプー、石鹸は使用後に片付けている。 		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 転倒などがあつたときにはすぐに話し合っている。 一人ひとりの状態から考えられるリスクを予測し、事故防止に努めると共に、起きたときの対処について申し合わせるようにしている。 記録としてのひやりはつとは十分ではないが、日常的なやり取りの中で話し合い予防に努めている。 		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・消防署の協力を得て、救急蘇生法の研修を毎年実施し、全職員が参加している。 ・看護師より観察ポイントや起こりうる状態やその対処方法など、その時々指導している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・年2回消防署立会いの避難訓練を実施している。他に、防火管理者を中心に年間計画にそっての訓練を行っている。 ・地域住民、消防署、警察、地元消防団への協力の呼びかけは開所時より行い協力してもらっている。 ・自治会用の備蓄米30kと、ある程度の紙おむつはストックしてある。	○	・災害に備えた訓練、備品、連絡等について考える。 ・防火管理者講習を順次受ける。(受講済 現3人)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・工具を使った作業や外仕事などはリスクが高くなるが、本人の満足感や達成感により生き生きとした笑顔が見られることを家族に伝えている。同時に、起こりうるリスクについて説明し理解を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・日常的に、利用者の顔色、表情、食事、排泄などいつもの様子を把握して、異常の早期発見に努めている。 ・異常を認めた場合は、状態の観察とバイタルチェックをする。情報はチームで共有し、継続的な様子観察を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬剤情報提供書をいつでも見れるようにしている。また、チェックしやすいように一覧表を作り、服薬までに3回チェックするシステムとし、誤薬を防いでいる。 ・服薬については、個別に支援している。 ・薬局とも、日常的に何でも聞ける関係を築いている。 ・家族にも薬剤情報提供書のコピーを送るようにした。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・ひとり一人に応じた自然排便を促すよう、食材の工夫や運動の働きかけをしている。 ・個別に食物繊維のとれる食事や水分、野菜ジュースや水分などを準備している。 ・必要に応じて医師に相談している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・肺炎の予防、口腔ケアの必要性を理解して支援している。 ・生活習慣の違いもあり、毎食後、就寝前、就寝後の義歯の手入れなど個別の方法で支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事や水分の摂取状況を記録し、摂取状況を把握している。経過が一目でわかるように記録の工夫をしている。 ・活動、体重、病気などから、適切なカロリー、食事形態にしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・マニュアルを作成し対応できるようにしている。が、見直しや勉強会は十分出来ていない。 ・インフルエンザの予防のため、毎年、利用者(本人、家族の同意のもと)職員とも予防接種を受けている。 ・ノロウイルス対策として、スーパー次亜水を使用している。	○	・流行時期に声かけはしているが、定期のマニュアルの見直しや勉強会はしていないので取り組みたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・まな板、ふきんの漂白殺菌を毎日行っている。次亜塩素酸Na水の水道を引いている。 ・新鮮で安全な食材を使用し、賞味期限のチェックや残り物の処分にも気をつけている。 ・冷蔵庫がギューギューにならないように、1台増やした。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関周りにお花、テーブルなどを置き、感じ良く気軽に立ち寄れる雰囲気作りに努めている。 ・いつでも入りやすいように玄関は開放し、スリッパもいつも準備している。 ・雨の日に利用しやすいように玄関先に屋根を付けてもらった。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・広いスペースを仕切って、過ごしやすい空間作りに努めている。利用者の意見や希望を聞いたり、様子を見たりして環境作りをしている。 ・ホールは、外から直接見える窓に目隠しシールをしたり、季節感を感じられるように工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・1人でまた、2~3人で過せるように、家具やソファで仕切りをしたり、廊下にテーブルと椅子を置いたりしている。 ・玄関先や物干し場、外にも椅子やテーブルを置いているので、お好みの場所で過しておられる姿を見る。 ・元ホーム長室を、ゆったり自由に過ごせる憩いの場として開放した。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用時に、馴染みの家具などの持込みを家族にお願いしている。入居後も必要な物は持って来てもらっている。 ・本人が居心地の良いと感じられるお部屋を作るために、利用者と相談してベッドや家具の位置などを変えたりしている。 ・居室で過ごすことが多い利用者には明るい部屋を提供している。 		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・空気の入れ換えや温度調節を意識している。 ・空調は、室内の温度計と利用者の様子を目安に調整している。空調の吹き出しから直接風が利用者に当たらないようまた、足元の冷えなどに注意している。 ・24時間換気システムはあるが、窓を開けての換気に努めている。 		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・ソファや家具の位置なども、手すり代わりにするようにしている。 ・廊下、トイレに手すり、風呂場に手すりや介助バーを着け、できるがけ自立した生活ができるように支援している。 		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・ホールの椅子を形や色をバラバラにして自分の物がわかるようにしている。 ・個別に、目線に合ったわかりやすい表札をつけ、トイレ、居室と場所の混乱を防いでいる。 		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・畑があり、野菜や花を利用者と一緒に育てている。 ・ベランダでお茶をしたり、洗濯物を干したりしている。 ・外にはあちらこちらにベンチがあり、散歩の途中で一服しながら、お話しやお茶、日光浴を楽しむことができる。 ・車椅子で土に触れられる畑を作った。 		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
	<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/>	③たまにある
	<input type="radio"/>	④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

今まで以上に”地域の中での暮らし”を意識することにより、運動会や盆踊りなどの地域交流のほかに、子育て支援センターとの交流、地域のボランティアさん、ミニデイサービスや防災訓練への参加、他施設との交流、等々ホーム内外を問わず新たな触れ合いがたくさん増えました。私達は、利用者の「やりたい」「行ってみたい」を大切に、利用者主体のケアを考えながら生活支援を行っています。職員の研修参加や実習生の受け入れにより、まず職員一人ひとりが学びを得、報告や意見交換、日々の会話から、その自己の学びをみんなで共有することで、質の向上に繋がっています。そこで一番大切なことは、日常的に何でも言える関係作り、環境作りだと思い、そんな組織作りにも取り組んでいます。また、すべての職員が全ての利用者、家族となじみの関係を作ることを目指し、いつ、どんな時でも、誰でも、何があっても対応できるようにと体制を整え、サービスにあたっています。「あれ？あんたここに居たんかな・・・」と、2階のおばあさんが1階に気軽に笑顔で遊びに来られます。尊厳について・・・支援について・・・記録について・・・日々の業務の中で話し合うことにより、職員の思いの統一をはかり利用者の生活の質の向上を目指しています。